

# 学校だより

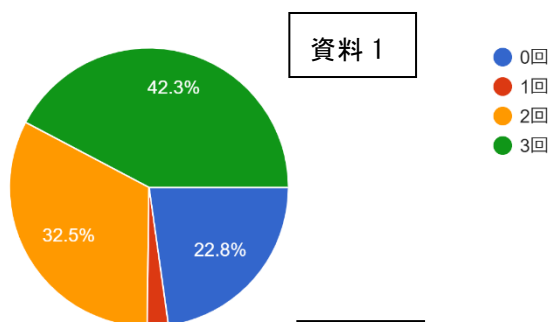
令和4年度 第6（臨時）号  
発行日 9月29日  
練馬区立大泉第二中学校  
校長 関 基 雄

## 新型コロナウイルス感染に関するアンケートから見てきたこと

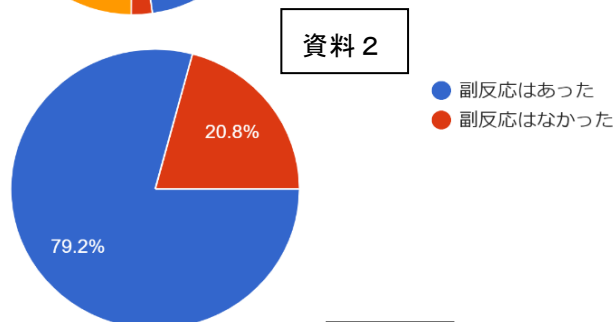
校長 関 基 雄

気が付けば9月も下旬、金木犀の香も漂い始め季節がすっかり秋に移ったことを実感する頃となりました。今回の学校だよりは9月上旬に生徒の皆さんに協力していただいた新型コロナウイルス感染に関するアンケート結果を報告するため臨時に発行をいたしました。今回の資料は回答をもらった124名のアンケート結果をもとに作成をしています。

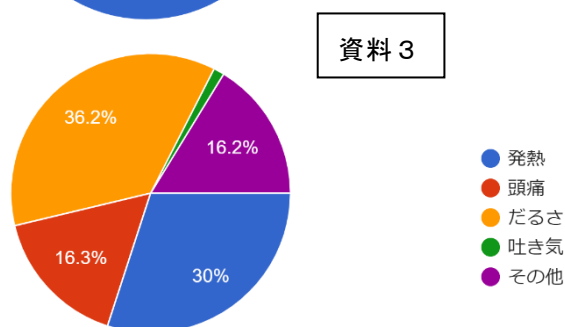
まずワクチンを打った回数を聞いたところ3回と2回を合わせると約75%となり4分の3に上ることが分かり、比較的多くの生徒がワクチン接種をしていることがわかりました。（資料1）



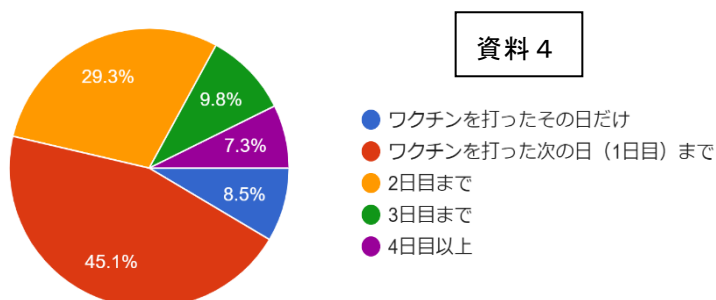
続いて副反応について聞いたところ副反応があったと回答した生徒が79%となり、多くの生徒に副反応があったようです。（資料2）



副反応でつらかったことで多かったのはだるさ（36.2%）、発熱（30%）、頭痛（16.3%）となっていました。（資料3）

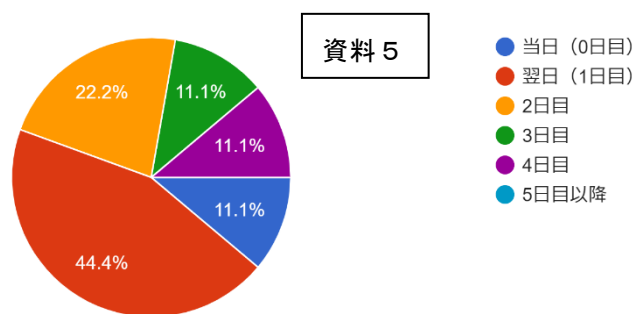


副反応のあった期間を聞いてみるとワクチンを打った次の日1日だけと答えた生徒の割合が1番多く45.1%。2日目までと答えた生徒の割合が2番目に多く29.3%となり、多くの場合概ね2日目まで収まっていることがわかりました。（資料4）



以上の結果から、今回回答をしてくれた生徒のうちワクチン接種を2回から3回受けている割合が高いこと。ワクチン接種を受けると多くの場合で「だるさ」や発熱などの副反応が出ることがわかりました。しかし、副反応は翌日から2日目までで治まることが多いということが見えてきました。

今回最も関心があったのは「感染してから何日くらいで発症するのか」ということです。しかし、いつ感染したのか特定するのはとても難しい問題です。感染した可能性があるとはわかるのは「濃厚接触者」となった場合です。そこで「濃厚接触者となってから陽性になった」という事例が分かると感染から発症までの期間が分かるのではないかと考えアンケートで聞いてみました。



この事例の回答数は大変少なく回答があったのは9名でした。その結果を示したのが資料5となります。9名のうち、濃厚接触者となって翌日陽性となったと回答があったのが4名(44.4%)、2日目に陽性となったと回答があったのが2名(22.2%)、それ以降で陽性となったと回答があったのが3名(33.3%)という結果でした。事例が少ないため断定的なことは言えませんが「第7波では感染してから発症するまでの期間が短い」と言われていますがそうした傾向は本校でもうかがえる結果となりました。

また、今回のアンケートでワクチン接種が感染予防に効果があるのかを調べることができないかと考え、ワクチン接種の回数と陽性となった人数の関係を調べてみたところ下の表のような結果となりました。この表を見てみるとワクチンを接種していても陽性になってしまうことがわかりました。ただし、3回接種をした人の場合には陽性となる確率は2回までの場合に比べて低くなっている傾向が見られました。今回のアンケートでは確認できていないことですが、ワクチンの効果については、陽性になるか、ならないかというだけでなく、たとえ陽性となった場合でも症状の程度や回復するまでの日数などでの効果があるのかもしれない。

接種回数	人数	陽性となった人数	%
3回	52	3	5.7
2回	40	6	15.0
1回以下	31	4	12.9

ワクチン接種は一定の効果があると言えるのではないのでしょうか。

さらに陽性となった生徒に感染について「何か思い当たることがあるか」と聞いたところほとんどの生徒が思い当たることはないと回答をしていました。知らない間に感染してしまっている様子がわかりました。

最初にも記したように今回の結果はアンケートに回答してくれた124名の結果を基にしたものであるため、全校生徒の感染の実態を正確に把握したものになってはおりません。それでもワクチン接種に関することや感染の様子について少しは見えてきたものがあるのではないかと思います。本校でもこの結果を今後の感染対策にも生かしていこうと考えております。各ご家庭におかれましても、この結果を参考にされて今後の感染対策に役立てていただけると幸いです。